

天上山 神津島）はガスの中

世K

もう五、六年も経つでしようか。娘の婚約者の父親の具合が悪く八丈島まで見舞いに行きました。そのついでに八丈富士（西山）（八五四）に登りました。快晴で北に御蔵島がうつすらと望めました。このことの確かめとか記憶は定かでありませんが、各地の島の山を登ってみたいと思っていましたところ東京新聞社から「島の山旅」というガイドブックが発行され直ちに購入しました。まずは伊豆七島からとガイドブックを眺めていましたがなかなか実現の運びにはいたりませんでした。

そこにひよんなことから



定期船 さるびあ丸

伊豆七島の神津島こうづしまへの誘いが舞い込みました。共産党の後援会の交流旅行です。福田美子さんからの誘いにこれに乗らない手はないと早速に申し込みました。八月二一日二三時東京港・竹芝桟橋から「さるびあ丸」（五〇〇トン）に乗り、翌朝九時に神津島に着きました。

この島には標高五七一・五の天上山があります。伊豆七島はいずれも小さい火山島ですから頂上に登れば三六五度の眺めが期待できます。二三日に登る予定です。

夜になってみんなは花火だスイカ割りだと浜に出かけて行きましたが私は民宿に残ってウイスキーをちびちびやっていました。そこへどやどやとみんなが戻ってきましたが騒々しいのです。「台風一六号によって海が荒れ明日の朝の便が最後になる。これに乗らないといつ帰れるかわからない。明日の便でみんな帰ることになった」ということですよです。

私の判断はこうです。「昨夜から今日にかけての海の荒れ方はそんなにひどくは

なかった。台風はだんだん遠ざかっていく。民宿代は払ってあるので今夜泊って明日は山に登る。船が来なくても来るまで島に残っている。」ということですよ。

同行の福田夫妻は、船酔いに弱いということで東京の調布飛行場から飛行機でやって来ていて、帰りはもと二四日の便です。ということでは三人だけ島に残りました。

二三日朝、三人だけのさびしい朝食後、民宿の車で白島登山口まで送ってもらいました。ここの標高はもう二九〇、頂上までは標高三〇〇、頂上までは標上を眺めると深いガスに包まれています。一気に外輪山まで登りましたが何も見えません。それでも火口の中を時計回りで一周しま

したが景色は変わりませんでした。最高地点に立ちましたが風にとばされそうなくらい。諦めて登山口に戻りました。

そこへジャンボタクシーが登ってきました。東京・足立区の小学生達です。運転手の話ではこの山は早朝はガスがかかるが昼間は晴れるとのこと。子供たちが登ってしまった頃、だんだん日がさしてきました。悔しい！棧橋の食堂で焼けの生ビールを飲んで気を納めました。

さて二四日になりました。船が出るか？通常は島の西側の前浜棧橋に船が着くのですが、この日は波が高いということで東側の多幸棧橋に着けるということでした。民宿の車で棧橋まで送ってもらい、しばらく待つ

ていると島の左端から船の姿が現れてきました。こうして予定どおり竹芝棧橋に戻ってきました。神津島はやり直しです。

世古佳彦

八月二十二日（土曜日）、二

十四日

福田美子

「船の島旅・神津島・天上山」というパンフレットを見て急に、思い立った。いつも一緒に山へ行く渡部さんは、毎年どこかの島へ行つてると聞き、渡部さんに尋ねると、神津島は依然にも行つたことあるし、今年も行くと聞き、世古さんを誘う。神津島へは竹芝棧橋から船、21時集合と書いてあったが、船は絶対嫌。私達夫婦は飛行機で行くと決

めたが、『調布飛行場から飛び立った小型機が墜落』のニュースに震えあがり、一度はあきらめたが、二度はないだろうと、覚悟を決めた。八月二十一日、土曜日、朝一番の飛行機に乗りたかったが、一か月前の予約ですでに満席。私その他にも物好きな人もいるものだ。墜落のニュースがあつたのに、怖くないのかしらね。しかたなく、朝十時五十分の飛行機にした。紙飛行機のようになちっちゃい奴で「ワ——！やっぱレコワー」酔い止めの薬を二錠も服用してしまった。飛び立つ前、それぞれ自分の体重申告があった。荷物は一人、5^{kg}まで、厳重チェック。飛行機に乗り込む。調布飛行場から飛び立った。フワツツと体が浮いたかと思ったら、

もう、海の上だった。そして、四十分で、神津島到着。空の恐怖は、あつけなく終わってしまった。ホツとして飛行機を下りると、民宿からお迎えの車が来ていた。そこで、船組の人達が待つバーベキュー広場へ向かう。ここで、世古さんと逢う。渡部さんは別行動でいなかった。昼食後、レンタカーを借り、四人ずつ乗り合わせて島内めぐり。真っ白い砂浜とエメラルドグリーン^①の海。絵葉書通りの風景だ。夏休みで海水浴場は家族が泳いでいる。湘南海岸の芋を洗うような、海水浴場とは違い人も少ない。孫家族に教えてやろう。夕方、民宿に入る。夕ご飯はきんめだいの煮魚、天ぷらが美味しかった。夕食後、ツアーの責任者と参加者となにや

ら会議が始まった。と、いうのも台風が来ているからだ。我々は到着しているから関係ない、と、思っていたが、翌日からは台風が迫ってくるので月曜日に帰る参加者の乗る船が来ないかもしれない、というので、明日の日曜日の朝の船で帰ろうということになったらしい。着いたばかりもう帰るのかと、混乱している人もいる、大慌てで荷物をまとめている人もいる。我々大宮ろう山の仲間の目的は「天上山」ハイキングだ。

この島にとどまるというところで、翌日、日曜日、帰る人と、帰らない人に別れた。我々、三人は帰らない組で、予定通り、民宿の人に登山口まで車で送ってもらい、ハイキング開始。この山は熊もいない、鹿、イノシシ、猿もない、いるのは蛇と鳥だけ。安心して山へ入れる。しかし、台風が来ているせいでしよう、天気が悪い、朝から山はガスがかかり、山の全容が見えない。こんな天気の良い日は誰も登ってこないでしょうね、今日は貸し切りだとおしゃべりしながら登山口で身支度する。登山口にはテーブルときれいな水洗トイレがあった。尾根に上がると、もう何も見えない深いガスの中、風も強い、これからどうしようかと一瞬迷った

が世古さんの勇気をもらい、「ババア池」に向かって登りだす。この名前が気に入らない。なぜババアなんていうのか。今日は貸し切と思っていたが、若者が二人、ぼったり、であった。ぐるり一回りして「不動池」に着く。池とあるが、水があったかな？ 広くぼ地だった。ここは風もなく静かです。三人でゆっくり昼飯を取る。とても落ち着く憩いの場所だ。オオシマツツジの木がたくさんあり、花の時期は素晴らしい憩いの広場になることでしょう。バイオトイレもあった。利用してみたが、新しくすぐきれいです。(今年の五月に完成させた自慢のトイレだそうです。)ここで公開ハイキングの宴会をと言ったら、どうでしょう。皆どんな反

応するか。船で眠れなかったらここで、昼寝をすればいい。やりたいなあ。寛いだ後、出発、最高地点に向かう。岩場、強風。四足状態で最高地点到着五七二m。ここを天上山というのでしよう。まったく展望なし。



(天上山頂上にて)

これじゃあどうしようもない。誰かいればカメラを頼むのに誰もいないので、お互い取り合う。まったく展望もなし、風も強いので白鳥登山口に下山。登山口で大型タクシーが来て、子供

達と大人十人ほど上がってきた。海から直接来たようなピーチサンダル、なにも持っていない子供もいた。ずいぶん気楽に考えている。このタクシーに乗りたかったが、世古さんの出発合図に歩いて下山。前浜海水浴場についてハイキング終了。歩いて民宿に帰ると、ガラーンとして、あのにぎやかな人達はいなかった。皆、船に乗って帰ったのだ。民宿は我々三人だけになった。三人だけの寂しい夕ご飯。台風の方、船は出るのか心配したが、月曜日、多幸湾に船は着くというので世古さんを見送りに行く。飛行機は午後一時なので、三人でゆっくり多幸湾に行く。ここは天上山の白い崖から一気に落下する断崖絶壁の景勝地。三人でゆっくり景

色を楽しみながら、船のくるのを待っていた。すると、大きな岩陰から白い船がふんわりふんわり揺れながら現れた。どこからともなく大勢の人が集まってきた。昨日の船で、観光客は帰ったのかと思っていたが、まだ、島にはこんなにたくさんの人が残っていたのかとびっくりした。世古さんが船に乗り込んで行った。お別れのテープを持っていた人にテープを分けてもらう。船が動き出した。テープがドンドン延びる。ゆらりゆらりゆれながら世古さんが遠ざかって行った。蛍の光の曲が流れていた。いつの間にか夫と二人、蛍の光を歌っていた。永遠の別れでないのに、もう明日になれば埼玉で逢えるのになぜか、涙がこぼれそうだった。そ

の後我々二人、観光客は本当に二人だけになり、寂しくしょんぼり。なにもする気がなくなり、『ボーっ』と、バス停で、バスを待っている。バスが来た。乗り込むとその運転手は昨日白島登山口で、あった大型タクシーの運転手だった。「あんた達、残念だったね。あんなに早くに登るからだよ、展望がなかっただろ。天上山はいつも、朝は駄目なんだよ、昼過ぎにならないと、晴れてこないよ。来年の五月末にまたおいで。オオシマツツジが見事だよ。船で来て一休みして登りだすとちよいといんだ。」と、教えてくれた。乗客は二人だけなので、バスをゆっくり走らせ、観光案内をしてくれた。三宅島はあそこ、御蔵島は、ああ、きょうは

見えないね、など。帰りの飛行機は台風の風のせいだろうか、ストーンと落ちてみたり大揺れ。もう、度胸はすわっている。伊豆の島々、新島、大島がよく見えた。次は大島に行きたい。来年の五月末、オオシマツツジの咲き誇る天上山に皆さん行きましょう。

世K、福DT、M



断崖絶壁の島 神津島